

を聞かぬのは悪い事で、紙を振り廻すのは善でも悪でもありません。ですから後の場合こそ、さとしもし、叱るべき時で、はじめの場合には、だまつてはつて置いてよいのであります。但し、たとひ

後の場合でも、多くの人前で、さとしたり。叱つたりすることが、よいか、わるいかといふことは別問題でございしますが、とにかく前の場合に顔色をかへ、言語をあらゝけて叱ることはいりません。紙を振り廻すことは悪いことではありませんが、若しやめさせやうと思ふならば、和らかに言つて聞かせばよいので、悪として取扱つてはなりません。

私は、今、氣の毒にも紙屋の阿母さんを例にだしました、これは誰しもあやまり易いことでございますから、多くの子供を世話して居る我々、

また子供を持つて居る阿母さん達は、大に氣をつけないければならぬことと思ひます。

曉の目をさませとや蓮の花

## 子供は

ひさ子

子供は即ち子供であつて、大人ではありません。ですから大人とちがうところが澤山あります。身心がまだ大人ほどに發達して居らない、といふことは、之は今私が申すまでもないことでございしますが、この大人ほどに發達して居らないといふところが、子供の子供たるころ、子供の愛すべきところ、教育に十分氣をつけなければならぬところかと思ひます。私は今思ひつき次第に、子供はどんなものと思ふことながらを申しませう。但し六か

しい理論上からわりだしたのではございません、順序なく私の見たところを申すのですから、其おつもりで御覽下さい。

●子供は無心で無邪氣で神聖なものです。「丁度白糸のやうなものである」と昔の人の言はれましたのは、なるほど思ひます。習慣は第二の天性と申しますから、このけがれて居らない子供は、育て方や境遇に由て、實にいろ／＼の色糸になるのである、と思へば子供の教育は、一分一秒の注意も怠らず細かく氣をつけなければならぬものでございます。少し油斷して白色の物を取り扱ふとすぐ手垢がついたり、他の色がついたりするやうなものでございます。私は今毎日午後、白糸で編んだ揺網の中に眠つて居る二歳の女児の寝顔を見て居りますが、其潔白な神聖なことを感じます。

今此兒は、世の中の偽も不親切も怒も悲も知らぬのであるが、幾年かの後はどんな女になるのであらう大人になつても、心は此網のやうにきれいであらうか、なびつく／＼行末を思ひやつて居ります。

●子供はよくまねをするものです。かつて私の姪が、私の水入さへ見ると、水の出口で硯を叩きます。そうしてある時、とう／＼其水入をわつてしまひました。此水入は、ある人がはる／＼遠方から送て呉れたのでしたから、誠に残念に思ひました。併しこれは子供がわるいのでなく、全く私がわつたのと同じです。なぜならば、私が水が少くなつた時に、不性をしてコツ／＼と出口を硯につけて出しましたのを、ちらと見ましたから、それから水入さへ見れば、たゞくものとも思つたので

せう。ほんとうに子供は善惡の差別なしに何でもかでもまねますから、何時の間に周囲の人、殊に自分に多く接する人のわるいくせまでも、まねて居るかも知れません。自分が、しらすくゝわるいことを見せておいて、子供が其通したからと言つて「なぜそんなことをする」と叱るやうなことがありましたならば、それは無理です。

●子供は割合におぼえのよいものです。尤も子供にもよりますが、遠い前のことを、昨日あつたことのやうに話し出して、大人を驚かすことが時々あります。去年あつたことも、一昨年見たことも、昨日とか、昨夜とか言つて、得意になつて子供が話をするのは、誠に罪のないものです。まして明日こうであつたとか、明後日こういふものを見たなど言ふ子供もありますのは、時の關係も名稱も

分らずに、記憶して居ることが分ります。おぼえて居なくてもよいこと、とんだことまでもおぼえて居つて笑の種を蒔くのは、どこの子供にもよくあること、思ひます。それにしても、心のかたまらぬうちには十分氣をつけて、悪いことを見聞させないやうにしたいものです。

●子供は正直なものです。少しも人を疑ひません「今度淺草に行つたら何々を買て上る」など言つておいて淺草に行けば、子供は大人よりもさきに思ひ出すでありません。之はおぼえがよいといふこともありますが、一體子供自身が正直で不善を知らず、從て▲の言葉を専心に信ずるからでありますところが、此正直な疑を持たぬ子供が年月のたつにつれて、だんくゝ人を疑ふやうになり、不正直の種が心に蒔かれ、進んで不正直なことを云

つたり行つたりすることがあります。即ち、言行に少しの裏表がなく、天真爛漫な子供が、無邪氣でない人を疑ふ愛らしくない兒になるかも知れません。之はなぜでありませうか。決して子供の罪ではありません、大人が不正直なことをして見せたり、かろ／＼しく約束してそれを實行しなかつたりするからであります。

●子供は無経験で大人ほど物が分りませんから、物事を奇妙にまちがつて解釋することがあるものです。ある人が、ある時子供等に、冠を着た清正が馬に乗つて居る畫をかいて見せました。すると一人の兒は「此清正には角がありませんネー」と申しました。此兒はかぶとの鍬形を角と思つたのでせう。して見ると子供は物事を見聞して大人が思ひもよらぬまちがつた解釋をして居るのか

も知れません。

●子供は活動と自由とを愛するものです。そうしてこの二は子供の身心の發達上、極めて大切なことでございます。之に由ていろ／＼経験したり、さとつたり、勇氣を出したりして進歩するものでございます。「私方の子供はどうも腕白で、少しの間もじつとして居りません」。「いやもう困つたもので、少しも油斷ができません、一寸でも目をはなすと何をしだすか知れません」など、いふ泣言をきくことがあります、之は子供の自然ですから、うるさがり面倒がるべきではありません。尤も法外の自由と活動を許しすぎでは、害になることも起ります。かすくともできるだけの活動と自由とは許してやらなければなりません、子供を大人のやうにしづめておかうといふのは、無理でもあり

且つ害にもなりません。

## 夏の飲み物

### 孤帆生

燃ゆる火を消すには盛に水を注ぐべく、熱せる物を冷さんには氷の中に包むべし、いふまでもなきことなり。されど三伏の暑さに得堪へて水を嚙ざりて凌がひとするは意氣地なき限り、氷をのみて涼しく感ずるは内部に入りたる水が溶解する爲に體温を奪ふ故なり、解けたる多量の水は食物の消化に必要な胃液の作用を鈍らし、甚だしきはいたく體温を減じ寒胃をさへ惹起すとあり、ラムネを飲むで渴を醫せんとするも實からぬ仕方なり、ラムネはクエン酸又は酒石酸に炭酸瓦斯を溶かしたるは尙可なれども今の市中にひさげる

ものは炭酸曹達に硫酸を加へ發生したる炭酸瓦斯を砂糖水の中に溶かしたるものなり、飲みて涼しく感ずるは體の内部にてラムネの液中の炭酸瓦斯が揮發する爲に熱を要し體温をとるによる、ラムネの品質の悪しきは胃を損ふと氷よりも甚だし。生水にも亦油斷すべからず、井の水、泉の水など如何程清淨なるものなりとて妄に多量に飲むべからず。

盛夏に氷もて冷せる食物を食ふは物識れる國民にも行はるゝことなれど、そのまゝの水をかざり多量の冷水をのみ等は全く野蠻人の仕業なり。妄に非常に熱きものを嗜む者は病人なると同じく、非常に冷たきもののみを求むる者も確かに身體の病態を自白せるなり。

健全なる國民は少くとも盛夏中湯を以て満足す